

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2005～2008

課題番号：17530380

研究課題名 (和文) 欲望を作り出す広告魔術を解く—環境保護の視点から

研究課題名 (英文) Environmental Approaches to the Advertising Magic to Create Desires:

研究代表者

江口 真理子 (EGUCHI MARIKO)

島根県立大学・総合政策学部・教授

研究者番号：00269523

研究成果の概要：

本研究は、環境保護の視点から広告のテキストを批判的に分析することを目的とし、自動車広告を対象として、テキストを言語・イメージ・音楽の要素に分け、言語学、景観学、音楽人類学、文明論の専門家による共同作業によって、広告テキストにアプローチした。江口は広告に使われる商品名の分析とイメージの分析を、江尻はテキストと広告の両方の分析を、諏訪は音楽の分析を行った。渡部は広告魔術の誕生を 19 世紀フランスにおける消費社会の誕生に遡って考察した。

共同研究の結果、芸術的テクニックの持ち主である広告の送り手は、言語、イメージ、音楽のような構成物という素材を用い、商品購入への欲望を掻き立てるといった魔術的效果を意図しているのだが、広告の魔術的效果は受け手側の解釈に大きく依存していることが考察された。広告の言語、写真、音楽はある人にとっては、「非日常的な神聖な世界」であるが、ある人にとっては、「地獄」となる。もう一つの発見は、近年新聞や雑誌で多く見受けられるようになった環境保護を重視する言説の間には、それを打ち消す広告が挿入されていることであった。TIME の記事と広告の関係を分析した江尻は、雑誌の記事では環境保護を訴え、挿入された広告では自然征服を謳歌するという矛盾に満ちたものであることを発見した。渡部による 19 世紀の雑誌メディアの考察と併せて読むと、雑誌メディアが消費社会と密接な関係を持つという雑誌の特性が現代にも脈々とつながっていることが分かった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	900,000	0	900,000
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,300,000	450,000	3,750,000

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：テキスト分析、言語、イメージ、音楽、広告、環境保護

## 1. 研究開始当初の背景

レイモンド・ウィリアムス (Raymond Williams) の広告批評、“Advertising: the Magic System” の発表以来、カルチュラル・スタディーズの研究者、ジェンダーの研究者、言語学者、メディア研究者らが、個人の欲求を商品の購入に結びつける広告の魔術を研究テーマとしてきた。しかし、それらの研究は、権力やジェンダーの視点から取り組まれたものであり、自然との共生や地球環境保護の視点からの研究は、最近の環境広告テキスト研究のわずかな例を除いて、ほとんど存在していない。

## 2. 研究の目的

本研究は、環境保護の視点から広告のテキストを批判的に分析することを目的とした。本研究は、広告テキストがどのように魔術として作用するかを環境保護の視点から解明することを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究の特徴の一つは広告テキストへのアプローチにある。従来の広告テキストの分析は言語表現を中心とするものが多かったが、本研究では、テキストを言語・イメージ・音楽の要素に分け、言語学、景観学、音楽人類学、文明論の専門家による共同作業によって、広告テキストにアプローチした。江口は広告に使われる商品名の分析とイメージの分析を、江尻はテキストと広告の両方の分析を、諏訪は音楽の分析を行った。渡部は広告魔術の誕生を 19 世紀フランスにおける消費社会の誕生に遡って考察した。

## 4. 研究成果

共同研究の結果、広告の魔術的効果は受け手側の解釈に大きく依存していることが考察された。広告の送り手は、言語、イメージ、音楽のような広告テクニクを駆使して、商品購入への欲望を掻き立てることを意図して広告を政策する。しかし、共同作業による分析の結果、そのような意図は、必ずしも達成されないということが考察された。

江口の言語とイメージの分析から、広告の言語とイメージの意味は、受け手側の文化に大きく依存していることが分かった。同様に、諏訪の音楽の分析からも、音楽はある人にとっては、「非日常的な神聖な世界」であるが、ある人にとっては、「地獄」となることがわかった。

もう一つの発見は、近年新聞や雑誌で多く見受けられるようになった環境保護を重視する言説の間には、それを打ち消す広告が挿入されていることである。TIME の記事と広告の関係を分析した江尻は、雑誌の記事では環境保護を訴え、挿入された広告では自然征

服を謳歌するという矛盾に満ちたものであることを発見した。この矛盾は、雑誌というメディアの特性であることが、渡部による 19 世紀の雑誌メディアの考察から明らかになった。雑誌メディアは、消費社会との密接な関係によって誕生し、その雑誌の特性は現代にも脈々とつながっていることが分かった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

### 1. 論文

(1) 江口真理子「自動車をめぐる言説—アメリカの雑誌広告に用いられた画像の分析を中心として—」『時事英語学研究』46 号、31-48 ページ 2007 年 9 月、査読有

(2) Mariko Eguchi, Keiichi Eguchi. The Limited Effect of PBL on EFL Learners: A Case Study of English Magazine Projects. Asian EFL Journal 8(3) 2006 年 9 月、査読有

(3) 江口真理子「記号論的広告分析への新しいアプローチ: アメリカの自動車広告で用いられた商品名を中心として」『総合政策論叢』11 号、11-26 ページ 2006 年 3 月、査読有

(4) 江尻雅一「TIME の環境問題特集記事に関する分析—アメリカ環境史の視点から」『時事英語学研究』No. 44、68-71 ページ、2005 年、査読有

(5) 諏訪淳一郎「ポスト社会主義トゥバにおける自然の物神化とエスノ文化資本の生成—ホーメイを事例として—」『北東アジア研究』別冊第 1 号、85-108 ページ、2008 年 3 月、査読有

(6) Jun-ichiro Suwa. “The Space of Shima.” Shima: The International Journal of Research into Island Cultures. Vol.1, No. 1, pp. 6-14, April, 2007、査読有

(7) Jun-ichiro Suwa. “The Abandonment of Yabob Island 1942-1975 and Memory of Cultural Continuity.” In Mike Evans (Ed.) Refereed Papers from the First International Small Island Cultures Conference, pp.108-116. Macquarie University. May, 2005、査読有

(8) 諏訪淳一郎「土着化したポップは、パプアニューギニアの音の風景である」『オセア

ニア』第77号、5-8ページ、2007年7月、  
査読有

(9) 渡部望 『『百学連環』の歴史的位  
置と意義』『北東アジア研究』第14・15  
合併号、21-35ページ、2008年3月、  
査読有

〔学会発表〕(計 2件)

(1) 江尻雅一 「アメリカン・ポップ・カル  
チャーから読み解く環境問題—マイケル・ク  
ライトンが描く環境問題—」2006年12月 日  
本時事英語学会関西支部例会

(2) 諏訪淳一郎 フィールドワークという  
挑戦：トッパ調査の事例から、第3会市民研  
究員定例研究会 2008年11月29日 島根県  
立大学

〔図書〕(計 4件)

(1) 江口真理子 (共著) 「プリント・メデ  
ィアの言語表現」『言語とメディア・政治』  
朝倉書店 247ページ(49-64)、2009年

(2) 江口真理子 (共著) 「英字新聞づくり  
を通じてコミュニケーション技能を育てる」  
『高等教育における英語授業の研究』松柏社  
339ページ(104-105)、2007年

(3) 諏訪淳一郎 (単著) 『ローカル歌謡の人類  
学—パプアニューギニア都市周辺村落にお  
ける現代音楽の聴取と民衆意識』 弘前大学  
出版会、290ページ、2005年

(4) 渡部望 (共著) 「西周の日常」『西周と日  
本の近代』ぺりかん社 89-114ページ、2005  
年

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

(1) 江口真理子 (取組責任者) 「北東アジア  
における英語使用環境の構築—ICT 活用によ  
る新しい英語教育モデルを目指して—」文部  
科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラ  
ム2007年~2009年

<http://lms.u-shimane.ac.jp/~eguchi/index.html>

(2) 江口真理子 「国連大学グローバル・  
セミナー 第4回島根・山口セッション2008  
の開催」『学報』No. 40、5ページ、2008年

10月31日

(3) 江口真理子 「北東アジアにおける英  
語使用環境の構築—ICT 活用による新しい英  
語教育モデルを目指して—」『学報』No. 37、  
3-4ページ、2007年9月30日

(4) 江口真理子 「English IIIB」『高等教  
育における英語授業の研究』 大学英語教育  
学会授業学研究委員会 104-105ページ 松  
柏社 2007年1月

(5) 江口真理子 「一人で出来る英語漬け生  
活のヒント」『レポート21』39-41ページ、  
2007年3月

(6) 江口真理子 「知識基盤社会における  
『21世紀型教育研究ネットワークシステム』  
の構築における基礎的研究(平成17年~19  
年)」『NEAR News』No. 24、4-5ページ、2007  
年6月

(7) 江口真理子 「自主的外国語学習メデ  
ィアの充実」『界限』No. 24、2ページ、2006  
年7月

(8) 江口真理子 「国連大学グローバル・セ  
ミナー 第2回島根・山口セッション」『学報』  
No. 33、4ページ、2006年9月29日

(9) 江口真理子 「英語メディアにみるグ  
ローバリゼーションと環境問題: 広告」『日  
本時事英語学会』No. 44、71-74ページ、2005  
年9月

(10) 江口真理子 広告魔術研究会ホーム  
ページ  
<http://gsv.u-shimane.ac.jp/ma-eguchi/>

(11) 渡部望 「西周と東西思想の出会い」『北  
東アジア学術交流財団共同研究報告書』  
89-114ページ、2006年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江口 真理子 (EGUCHI MARIKO)  
島根県立大学・総合政策学部・教授  
研究者番号: 00269523

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

渡部 望 (WATANABE NOZOMI)  
島根県立大学・総合政策学部・教授  
研究者番号: 60167153

瓜生 忠久 (URIU TADAHISA)  
島根県立大学・総合政策学部・教授  
研究者番号：60326395

江尻 雅一 (EJIRI MASAKAZU)  
京都産業大学・文化学部・准教授  
研究者番号：10298896

諏訪 淳一郎 (SUWA JUNICHIRO)  
弘前大学・留学生センター・准教授  
研究者番号：40336904